

リースを現物管理する！ 「Convi.BASE」 解説セミナー

リースを現物管理する！「Convi.BASE」解説セミナー

リース資産の管理方法について、「現物管理」は正しく出来ておりますでしょうか。

本セミナーではリース資産を現物管理する理由と管理時の問題点を整理し、リースの所在地やリース期間などの“現物情報”を一元管理する、「**Convi.BASE**」によるリース資産の管理方法をご紹介します。

「資産物品管理とは？」

「リース資産管理のポイント」

「他社ではどうしてる？」

といった物品管理の現状などをお伝えし、物品管理クラウドサービス「Convi.BASE」での解決案をご紹介します。



リース資産を現物管理する理由

1. 資産計上の正確化

新リース会計基準では、すべてのリースが貸借対照表に計上されるため、「**実際に存在し、使用している**」ことが明確に求められる。計上した資産が実在しないと、会計上の不正や誤謬と見なされる可能性あり。

2. 契約管理・コンプライアンス対応

リース資産は契約に基づいて借りているモノであるため、契約違反や未返却、未報告といったリスクを避けるために、管理が不可欠。管理されていないと、中途解約・返却の手続き時に「現物が見つからない」なんてことも。

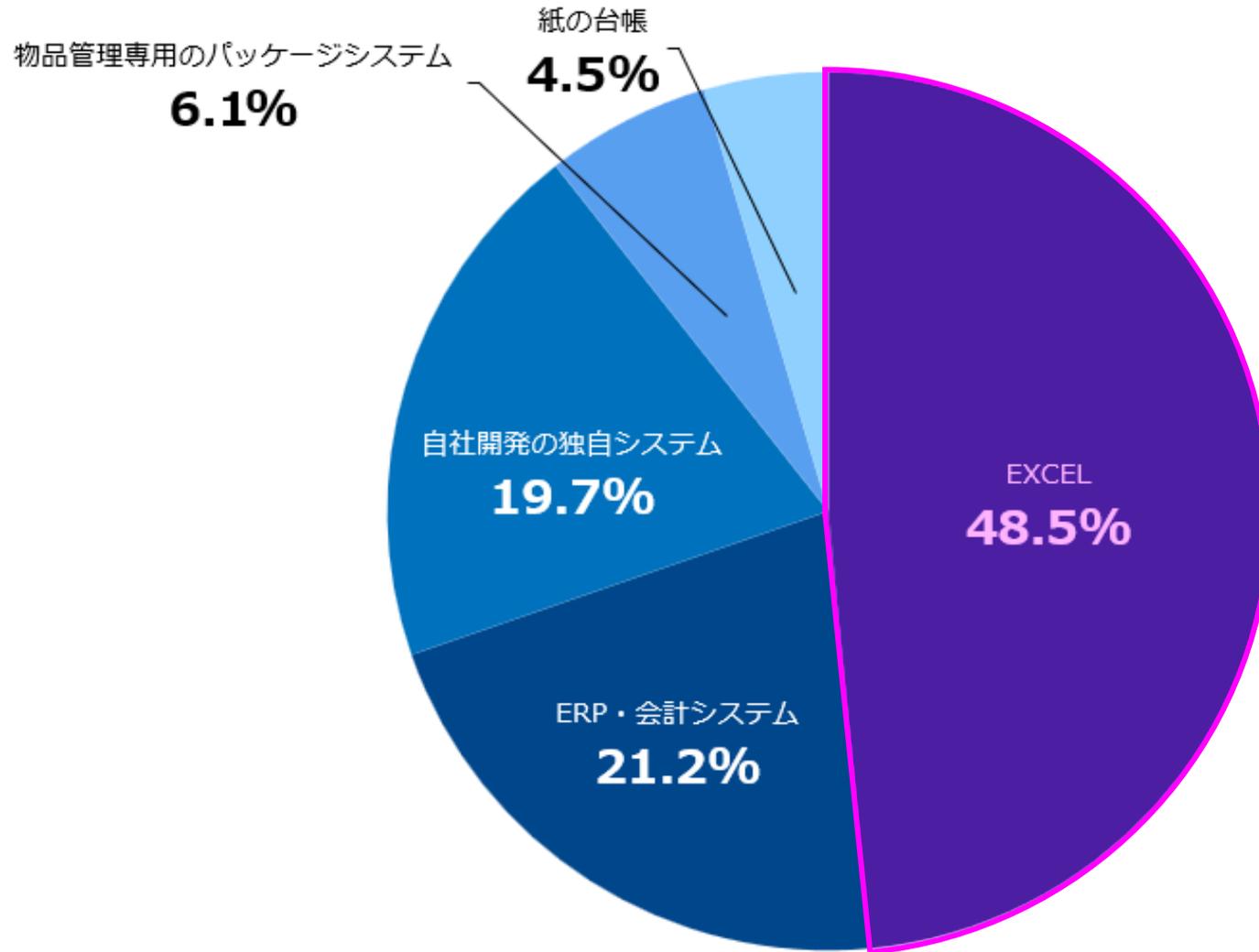
3. 内部統制・監査リスクへの備え

企業の内部統制では、資産の管理状況もチェックされる。リース資産がどこにあって、誰が使っているか、きちんと把握していないと内部統制上の不備とされ、資産の私的利用・横流し・紛失があっても気づけない状態はリスク。

4. 業務効率化・コスト最適化

現物管理をしないと、同じ物品の重複リース・無駄契約してしまうケースが発生。使われていない・不要なリース資産を放置していると、無駄なコストが発生する。

一般的に、リースの現物情報はどのように管理している？



質問：「固定資産物品の管理台帳として主に使用しているツールをお答えください」

(出典：株式会社コンビベース「2024年度版_固定資産物品の管理に関するアンケート調査 (202411-1) 」)

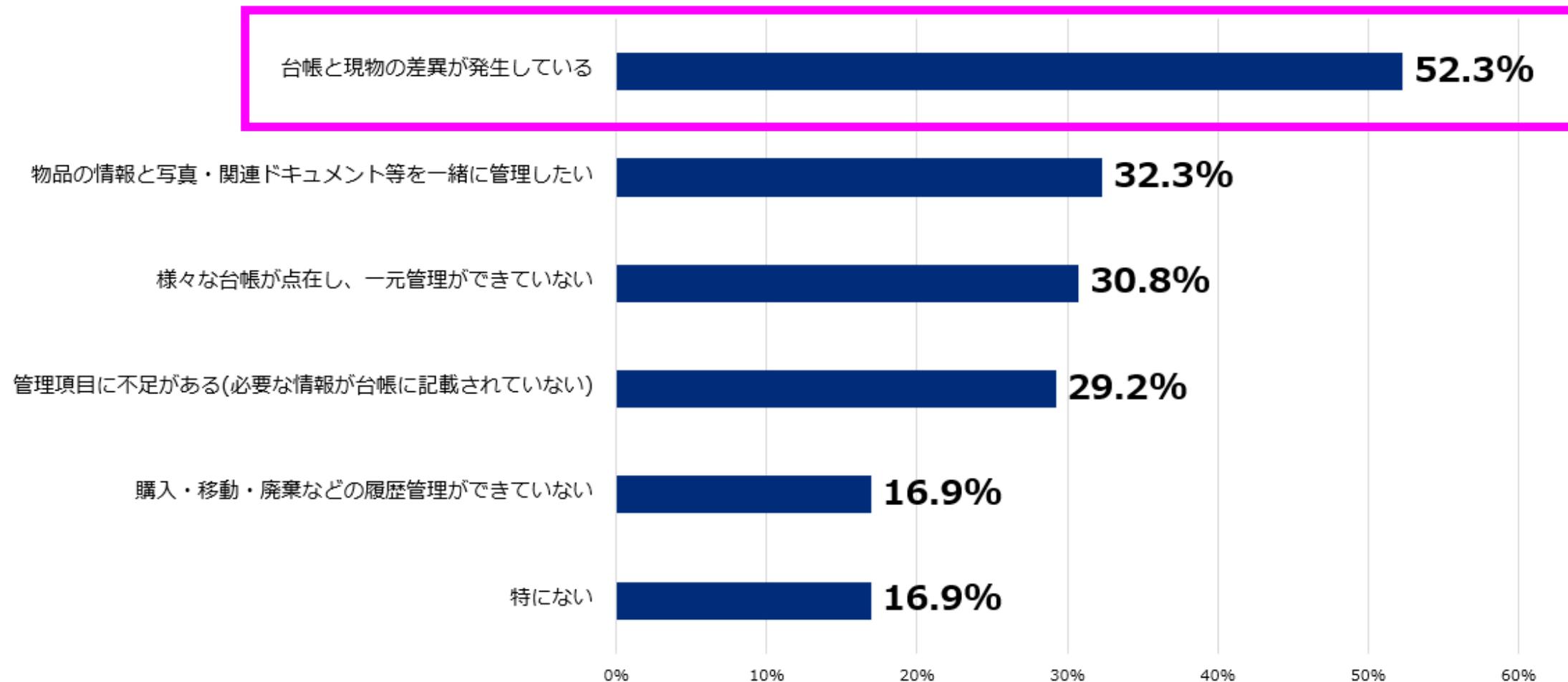
A. 管理点数がそのままExcelの行数になるので、 点数が多いほど管理が大変になる！

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	物品管理台帳							
2								
3	管理番号	資産名	資産種別	建物	フロア	設置場所	管理部門	取得年月日
4	00000001	ノートパソコン NRCB	固定資産	東京本社	06F	オフィススペース	総務部	2024/1
5	00000002	ノートパソコン NRCB	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/1
6	00000003	ノートパソコン NRCB	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/1
7	00000004	ノートパソコン NRCB	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/1
8	00000005	空調設備	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/1
9	00000006	社用車	固定資産	大阪本社	06F	オフィススペース	総務部	2024/1
10	00000007	社用車	固定資産	大阪本社	06F	オフィススペース	総務部	2024/1
11	00000008	社用車	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/1
12	00000009	社用車	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2002/
13	00000010	社用車	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2002/
14	00000011	社用車	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2002/
15	00000012	応接セット	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2003/
16	00000013	業務用机 KL-320	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2003/
17	00000014	本社内装一式	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2003/
18	00000015	シート (通路)	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2004/
19	00000016	シート (秘書室)	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2004/
20	00000017	シート (社長室)	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2004/
21	00000018	シート (副社長室)	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2004/
22	00000019	消防設備	固定資産	東京本社	09F	倉庫	総務部	2004/
23	00000020	ノートパソコンKT	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/

一般的なリースの管理項目

- リース契約番号
- 型番・シリアル番号
- 導入日・リース期間
- 所在部署・設置場所
- 管理状態・利用状況

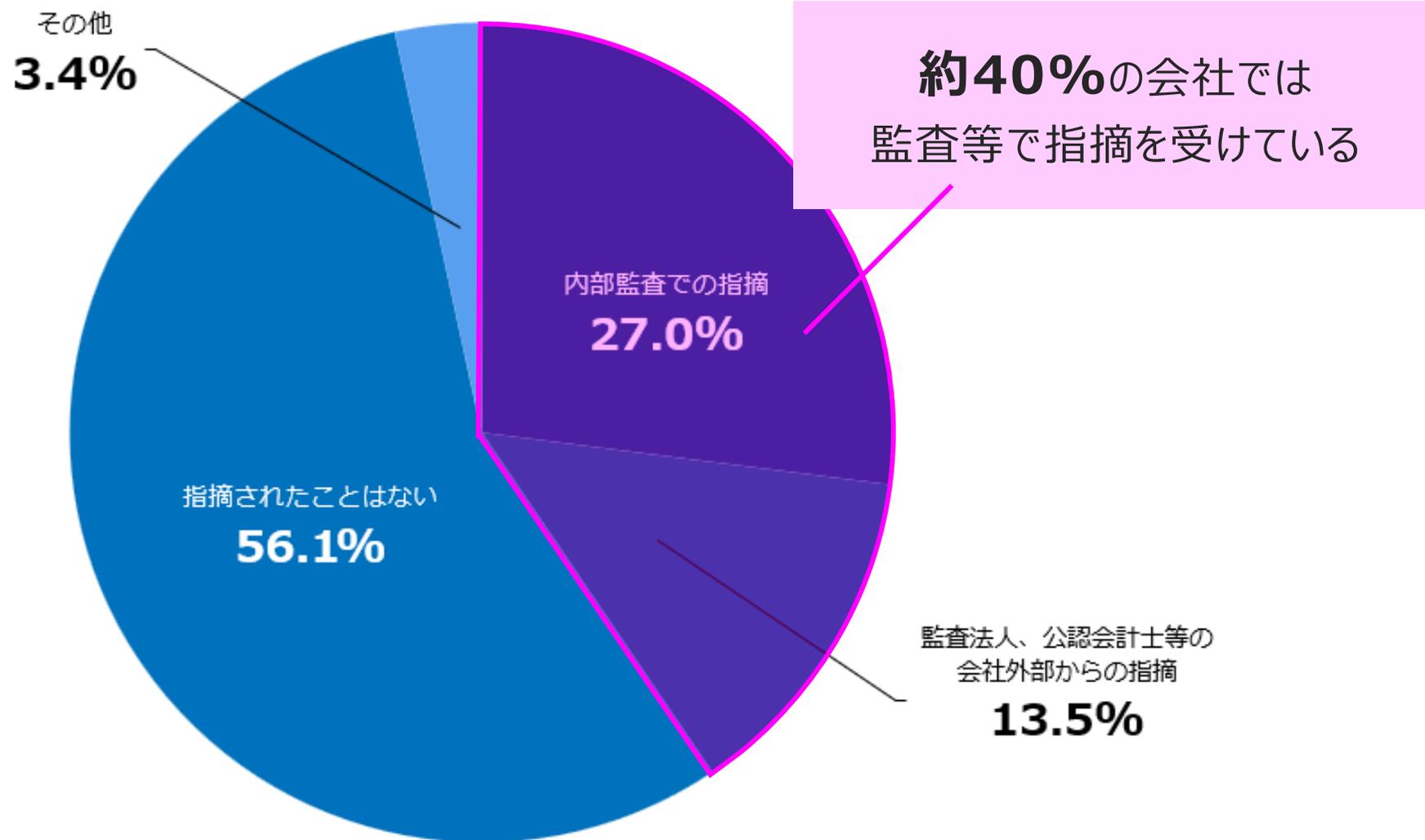
事実、台帳と実態は乖離しやすい



質問：「固定資産物品の「管理台帳」について課題と感じていることをお答えください(複数回答)」

(出典：株式会社コンビベース「2024年度版_固定資産物品の管理に関するアンケート調査(202411-1)」)

＜参考＞ 監査から指摘を受けている割合



質問：「物品管理について、社内外から指摘を受けたことはありますか？」

(出典：株式会社コンビベース「2024年度版_固定資産物品の管理に関するアンケート調査（202411-1）」)

※指摘を受けたことがある：どのような組織から指摘を受けたかを回答

※指摘を受けたことがない：「指摘されたことはない」と回答

Excel管理で行う棚卸しは大変

「資産の実在性」を担保するために、毎年の棚卸しは必須。

① 準備



- 棚卸しリスト作成
- 各現場へ棚卸しリストを配布

② 現物確認（実査）



- 印刷した紙リストを元に物品を照合
(2人1組で実施するケースが多い)

③ 集計・更新



- 棚卸し結果を集計
- 会計システムと突合・データ更新

目視棚卸しの工数シミュレーション

※前提条件

- ・棚卸し対象資産数：1,000点
- ・対象フロア：5フロア

- ・対象拠点：1拠点
- ・資産移動率：10%

現物確認
約**83**時間

- ①台帳記載の資産確認
- ②現物の検索と確認
- ③チェック
(①②③の工程を5分/1点と仮定)

集計
約**4**時間

- ①紙台帳で棚卸し結果確認
(有無等)
- ②Excel入力
(①②の工程を15秒/1点と仮定)

差異確認
約**3**時間

- ①移動等の差異情報の確認・入力
(2分/1点と仮定)

データ更新
約**1**時間

- ①データ加工・メンテナンス
(30秒/1点と仮定)

延べ
約**91**時間

リースを管理する問題点

問題1

台帳と現物に差異が発生する

問題2

棚卸しの工数がかかる

物品管理システム「Convi.BASE(コンビベース)」とは



2005年1月に提供開始したあらゆるモノの管理を支援する物品管理クラウドサービスです。

「面倒な棚卸しを楽にしたい」「物品の紛失が発生している」など、管理対象を問わず、あらゆる物品管理の「困った」を解決します。

導入社数は**1,200社**を超え、物品管理システムとして**導入実績No.1**※になりました。

導入実績

NISSAN
MOTOR CORPORATION

PFU
A RICOH Company

 **SOMPO**コミュニケーションズ

WORKS JAPAN

 **PASONA**
日本総務部

 **SHIMADZU**
Excellence in Science

 南海システムソリューションズ

TOPPAN

 **ブロード**エンタープライズ

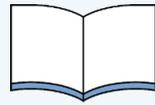
漢検

 **日本パリソン株式会社**

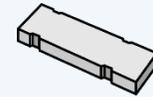
物品管理システム「Convi.BASE(コンビベース)」とは

柔軟な管理台帳で物品情報を一元管理し、QRコードやICタグで現物と紐づけることで、資産の状態や状況などを簡単かつ正確にマネジメントできます。

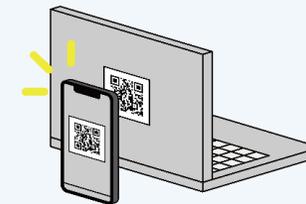
情報を一元管理できる
柔軟な台帳アプリケーション



QRコードやICタグで
現物と台帳を強かに紐づけ



スマホで管理ラベルをスキャンして、
棚卸し、貸出し返却、移動管理、在庫管理、点検管理などを実現



※ICタグのスキャンはiOSデバイスとBluetooth接続する専用のRFIDハンディリーダーが必要です。
※AndroidアプリはQRコードに対応しています。

Convi.BASEはありとあらゆる物品を管理ができます

柔軟な項目設定で既存の運用に合わせた**お客様専用の管理台帳**を作成できます。
そのため、コンビベースは**管理対象を問わず**ご利用いただけます。

1

固定資産・備品

×

資産棚卸し



2

リース資産

×

リース期限管理



3

重要文書・文書箱

×

契約・廃棄期限管理



4

IT資産

×

貸出し返却

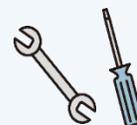


5

工具

×

点検管理



6

計測器

×

校正管理



7

店舗什器・厨房機器

×

移動管理



8

在庫・消耗品

×

入出庫・数量棚卸し



9

防災備蓄品

×

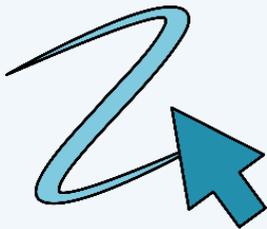
消費期限管理



Convi.BASEが選ばれる理由

1

操作性

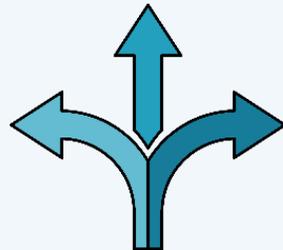


シンプルな画面構成で、どなたでも**直感的に操作**いただけます。

iOS・Androidアプリを利用して、**外出先や現場**からもご利用いただけます。

2

柔軟性

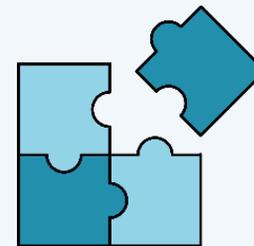


管理項目を自由にカスタマイズして、**既存の運用に合わせた**お客様専用の管理台帳を作成できます。

写真やExcel、PDFなどの関連ファイルの添付も可能です。

3

拡張性



さまざまな部門や拠点での、**あらゆる業務・用途**で活用できます。

アプリケーションを追加することで、「**管理対象を拡張したい**」「**他部門やグループ会社でも使いたい**」という声にお応えします。

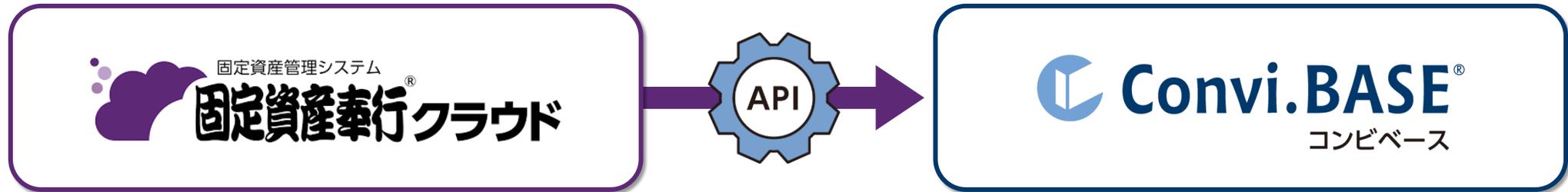
Convi.BASEの運用イメージ



※1 ICタグはコンビベースの管理番号のエンコードが必要です。 ※2 AndroidアプリはQRコードに対応しています。 ※3 一部専用ハンディリーダーにも対応しています。

2. Convi.BASEの運用イメージ（API連携）

固定資産奉行クラウドとConvi.BASEをAPIで連携することで**連携作業を簡素化し、常に最新情報を共有**できる。



連携方法

手動：任意のタイミングで連携を実行

スケジュール化：あらかじめ設定したスケジュールで連携が実行

※ 固定資産奉行 V ERPクラウドとのAPI連携は開発予定です



Convi.BASEによる棚卸しの効果（シミュレーション）

目視棚卸し の場合



Convi.BASE の場合



<参考> 棚卸しシミュレーション

比較項目	目視棚卸し	Convi.BASE棚卸し
現物確認	約 83 時間	約 17 時間
	①台帳記載の資産確認 ②現物の搜索と確認 ③チェック (①②③の工程を5分/1点と仮定)	①スマホで読取りフロア指定 (1分と仮定) ②QRコードラベル読取り (1分/1点と仮定)
集計	約 4 時間	約 1 分
	①紙台帳で棚卸し結果確認 (有無等) ②Excel入力 (①②の工程を15秒/1点と仮定)	①Convi.BASEへ棚卸し結果送信
差異確認	約 3 時間	約 2 時間
	①移動等の差異情報の確認・入力 (2分/1点と仮定)	①差分チェックリスト自動生成 (約1分) ②差異(移動)情報の確認 (1分/1点と仮定)
データ更新	約 1 時間	約 1 分
	①データ加工・メンテナンス (30秒/1点と仮定)	①自動更新 (移動履歴自動保存)
	延べ 約 91 時間	延べ 約 19 時間

※前提条件 ・ 棚卸し対象資産数：1,000点 ・ 対象拠点：1拠点 ・ 対象フロア：5フロア ・ 資産移動率：10%

Convi.BASEのリース管理の事例①

パソナ日本総務部様の事例

管理対象

53拠点の約10,000点のリース資産（什器、オフィス家具、複合機、社用車など）

課題

リース契約の更新や棚卸し業務がExcel管理で属人化し、非効率な運用が行われていた。

→ [事例記事を読む](#)

導入の決め手

①柔軟なデータベース管理

「Convi.BASE」は柔軟性が高く、Excel VBAでのAPI連携が可能なため

②スムーズな移行

既存のExcelデータをインポートするだけでシステム立ち上げができるため

導入効果

①業務効率化

データの一括更新や履歴管理により、リースの処理工数が約40%削減

②データの信頼性向上

更新履歴の自動保存により、データの整合性と信頼性が向上

今後の展開

①自動通知機能の活用

アラートメール送信機能を利用し、リース契約満了や棚卸しの連絡を自動化

②他業務への展開

「Convi.BASE」の適用範囲を拡大し、他のExcel管理業務への導入を検討

Convi.BASEのリース管理の事例②

ネットヨタ茨城様の事例

管理対象

26店舗と4施設で、約1,500点の償却資産（機械装置、什器・備品、社有車など）

課題

- 資産管理が特定の担当者に依存しており、退職により管理状況が不明確に
- 台帳と現物の不一致や、棚卸し作業の非効率性が顕在化していた

→ [事例記事を読む](#)

導入の決め手

① 属人化の解消

資産管理の属人化を解消し、資産情報を一元的に管理し、リアルタイムでの把握を可能にするため

② 効率的な棚卸し

QRコードを活用した効率的な棚卸しを実現するため

導入効果

① 棚卸し時間の大幅短縮

1店舗あたり3日かかっていた棚卸し作業が、約15分で完了。棚卸しの進捗状況をリアルタイムで把握可能に。

② 資産情報の正確性向上

台帳と現物の情報が一致し、資産の有無が明確に。資産管理に対する社員の意識が向上し、適切な管理・処分が促進された。

今後の展開

① メンテナンス管理への応用

サービスカーの車検日やオイル交換日の管理など、他の業務への「Convi.BASE」の活用を検討

② 他社事例の参考

他社の導入事例を参考にし、さらなる活用の幅を広げる予定



お問い合わせ

株式会社コンビベース
営業部 マーケティンググループ



03-5643-6743



cb-info@convibase.co.jp